

インターネット電話を利用した英語での国際交流

ーフィリピン小学生との交流ー

長野県下諏訪町立下諏訪中学校 教諭 林 健司

hayashi-kenji@suwa-ngn.ed.jp

キーワード：インターネット電話（Skype）、英会話、英語を学ぶ生徒同士で、時差 1 時間

1. はじめに

本校では、地域の方との協働活動を 10 年ほど前から総合的な学習の時間やボランティアなどを通しておこなっている。地域の社会奉仕団体の「諏訪湖ロータリークラブ」とは多くの協働活動をしている。昨年度、諏訪湖ロータリークラブが企画した「鍵盤ハーモニカを贈るプロジェクト～セブの子どもたちに音楽・音感教育を～」の活動に本校も協力することになった。小学生の時には使っていたが中学生になるともう使われなくなる鍵盤ハーモニカの有効活用と、音楽教育が充分におこなわれていないフィリピン・セブの児童たちのために、またその後の両国、両学校の国際交流につなげていくことを構想した。

本校の生徒の家庭や地域の方に呼びかけをして、57 台の鍵盤ハーモニカが集まり、提供した生徒からの英語の手紙と一緒に、セブのマクタン小学校に 12 月に寄贈した。寄贈だけでは音楽教育が継続しないため、鍵盤ハーモニカを指導するために私も同行した。最初に先生方に指導法を伝え、その後 4 年生、翌日に 5 年生にそれぞれ 3 時間程度、鍵盤ハーモニカの指導をおこなった。現地の小学生は生まれて初めて見る楽器に興味を示し、最後には「きらきら星」や「ジングルベル」の演奏をすることができた。マクタン小学校の児童達も、本校の生徒に英語でお礼の手紙を書いてくれた。このやり取りをきっかけに、英語での国際交流ができないかと考え、今年度のフィリピン・マクタン小学校との交流へとつながっていった。



写真 1 鍵盤ハーモニカの指導（2011年12月）

2. 実践のねらいと特色・工夫

2. 1 ねらい

母国語ではない英語を学ぶ両国の生徒同士が、インターネット電話を使い英語で交流しあうことを通して、英語を活用する力を高めるとともに両国の文化や習慣などの理解を深めることができる。

2. 2 活動の特色・工夫

- ①両国とも外国語として英語を学んでいるので、英語を母国語とする生徒を相手にするより劣等感なく英会話することができ、両国の生徒共に英語教育向上の成果が期待できる。
- ②下諏訪町は英語特区を申請しており、小・中学校

で英語教育に力を入れているが、実践的活用の場合が少ないため、この交流が英語の活用力を高められる機会となる。

- ③地域のロータリークラブとの協働活動および協力により国際的な活動をすることができる。
- ④インターネットを通じて、リアルタイムで相手の顔を見ながら生の英会話を体験でき実践力を高めることができる。
- ⑤フィリピンとの時差はわずか 1 時間なので交信の活動計画を立て易く、お互いが学校にいる時間帯での交信が可能である。（欧米諸国では時間設定が難しい）

3. 実践の様子

今年度の活動として、両校の生徒・児童同士がインターネット電話を使って英会話で交流することを計画した。そのために両校の ICT 環境の確認を行い、ソフトウェアとしてインターネット電話で普及して使いやすい「Skype」のビデオ通話を用いることにした。ネット環境は、本校は校内 LAN（ケーブルテレビ光回線）、フィリピンはパソコン用の USB 無線モデム（GMS）を使用。交流する生徒は、本校は総合的な学習の時間の「国際交流」講座の 2 年生、マクタン小学校は昨年度鍵盤ハーモニカの指導をした 5 年生とした。

（1）1 回目の交信＜2012年6月＞

1 回目に交信はテスト交信として 6 月におこなった。まずは両校の校長先生同士で挨拶をした。お互いの顔が見えた瞬間にその場から驚きと喜びの歓声が上がった。次に代表生徒が自己紹介などの会話をおこなった。途中回線の状況が悪く音声が聴きづらかったため、ホワイトボードを使って書いたものを提示したり、チャット機能を使って文字を入力したりして 1 時間ほど交流することができた。お互いの顔や表情を見ることができたり、英語が通じ合ったりすることで、両方の生徒とも交流できたことにとっても感動していた。そして次回は 7 月に交信する約束をした。



写真 2 1 回目の交信の様子（6月：校長室）

（2）2 回目の交信＜2012年7月＞

7 月の交信では 20 名程度の生徒が交信をするので、事前の準備を念入りにおこなった。二人一組のグループとなり自己紹介や日本の紹介などの原

稿を考え、リハーサルを行い、どきどきしながら本番の交信を待った。グループごとに、緊張しながらフィリピンの小学生との英語での交流を交代でおこない2時間の交流があつという間に終わった。緊張して上手に話せない生徒やペラペラと会話する生徒など様々ではありましたが、事前の準備も含め有意義な時間になった。



写真3 2回目の交信の様子（7月：会議室）

（3）3回目の交信＜2012年12月＞

2回目の交信の状態が不安定なこともあり、3回目はコンピュータ室で交信をおこなった。サーバーに近いこともあったためか、通信速度（下り）は20Mbps以上があり Skype のビデオ通話でも十分な通信速度だった。3回目の内容として、フィリピンの小学生にプレゼントを計画しているので、どんなプレゼントが喜んでもらえるか、こんなものを予定しているがどうかなどの話を英語で会話した。話の中から、日本のお菓子やおもちゃ、雑誌などを送ることになった。代表生徒同士の会話だったが、1・2回と比べ和やかな表情で会話することができた。また、本校に在籍するフィリピン国籍の女子生徒とタガログ語（フィリピン語）で会話することもおこなった。

1月にはロータリークラブの方と本校の職員がプレゼントや英語の授業で生徒が英語で書いた手紙などを届けにフィリピンの小学校を訪問する予定である。



写真4 3回目の交信の様子（12月：コンピュータ室）

4. 実践の成果と今後

4.1 ICT 環境

Skype でのビデオ通話では、表1のようなシステム要件が必要になる。本校の場合でもパソコンのスペックや通信速度によってはビデオ通話が不安定になることが分かった。フィリピンでは GSM の携帯通信網を利用することが多いが、通信速度は遅く不安定であつ

たため、2回目からは現地企業内の LAN から接続をしてほぼ安定したビデオ通信ができた。お互いの学校で気軽にできる環境を今後模索していきたい。

バージョン：Windows XP、Vista、7、8
プロセッサ：1GHz 以上
RAM：256MB 以上 その他：DirectX v9.0 以降
インターネット回線：高速ブロードバンド接続推奨
最小要件は、512kbps（下り）/128kbps（上り）
優れた品質を実現するには、4Mbps（下り）/512kbps（上り）の高速ブロードバンド接続と、Core 2 Duo 1.8GHz プロセッサ搭載のコンピュータをお勧めします。（グループビデオ通話など）

表1 OS が Windows の場合のシステム要件

4.2 生徒の姿、英語教育

・一回目の交信した生徒は、英語が得意であったため、臆することなく自己紹介などを英語でおこなうことができた。ビデオ通話のため、相手の顔が見え歓声をあげたり手を振ったり表情が分かったりすることは良かった。しかし音声の通信状況が悪くなったので、お互いに英文でチャットをおこなったが、会話はそれなりにできたが英文のタイピング技能やスペルの自信のなさからうまく打つことができず、これが次への課題となった。

・二回目の交信では、グループごと全員が自己紹介などの英会話をおこなったが、上手にしゃべることができた生徒とそうでない生徒がいた。しかしその様子から「〇〇さんのように上手に英語をしゃべりたい」とか「フィリピンの小学生に負けたくない」など英語に対するモチベーションの向上がみられた。そのためには、単語力を身につけたいと感じ、授業のスピーキング活動がんばりたいなど次の学習の意欲や課題も生まれた。

・3回目の交信に向け、日本のどんなおもちゃやお菓子を紹介するか、どう英語で伝えるか、どんな表現がよいのか真剣に考える姿が見られました。手紙とは違い、リアルタイムでのコミュニケーションであるため、柔軟な対応が必要になるので、説明文も具体的にいくつか用意するなど生徒が考えるようになってきた。

・交信回数は頻繁には取れないものの、交信に向けた準備の取り組みでは意欲的な姿が見られた。

・インターネット電話での交信をきっかけに、今までは関心の少なかったフィリピン国の生活や文化に触れることが今後期待できるとともに、学校での英語全般への意欲向上にもつながると思われる。

・音声の通信状況が悪いときにもあるが、チャットでの交信やホワイトボードでの筆談で交流することができたことも分かった。英文のタイピング技能や語彙力、スペルの正確さの必要性が分かった。

今後は両国の文化など細かく焦点を絞り交流を深める予定。例えば両国の伝統的なおもちゃや人気のお菓子の紹介、また本校の生徒が制作している下諏訪町の英語マップなどの紹介を行うなどの計画をしている。交流様子を全校で視聴し交流することも構想し全体に広げていくことも予定している。また、このような国際交流が下諏訪町の他の小・中学校でも可能かどうか、英語教育と ICT 活用の面から今年度模索していく予定である。こうしてインターネット電話での交信を核として国際交流を進めている。